＊メタルプロダクツ（山形）＊

ウクライナの幼稚園給食センターが完成

プロジェクト通じ、復興へ貢献

渡邊社長

鉄骨二次部材加工業として知られるメタルプロダクツ（本社・工場＝山形県真室川町、渡邊進社長）は、ＪＩＣＡ（国際協力機構）が推進する「ウクライナ国復興に向けた民間セクター参画促進プロジェクト」の一環として、ウクライナ・キーウ州のＤｅｍｙｄｉｖ村の幼稚園給食センター建設および鉄骨鉄筋シェルター図面作成プロジェクトに取り組んでいる。

関係者一同で記念撮影

同地域は全面侵攻当初に一時的に占領され、甚大な被害を受けたインフラを含む多くの課題を抱えている。復興には教育環境の充実と子どもたちの健康支援が不可欠で、今回の給食センターの建設は地域の再建と安定化に寄与するものと期待されている。また、民間企業と国際協力機関の連携は、持続可能な地域支援のモデルを構築、さらに現地コミュニティーの安定と子どもたちの栄養確保など生活基盤の再構築を支援することになる。

Ｄｅｍｙｄｉｖ村の幼稚園給食センターがこのほど完成したことから3日、Ｄｅｍｙｄｉｖ村主催で幼稚園職員や園児、父兄らが参加のもと現地で在ウクライナ日本大使、キーウ州政府代表、ＪＩＣＡウクライナ事務所長らが出席してオープニング式が挙行された。

渡邊社長（右）の開会あいさつ

施工はメタルプロダクツが業務提携している現地のＭｏｄｕｌｅｘ社が担当した。同社はウクライナ国内でモジュールハウスの建設では55％のシェアを有する建設業者として知られる。なお、給食設備や食器類はメタルプロダクツが寄付した。

Ｍｏｄｕｌｅｘ社とは新年早々に新会社を設立する予定で今後、ウクライナ復興支援を拡大していく予定だ。

メタルプロダクツの渡邊社長は「Ｄｅｍｙｄｉｖ村給食センター建設は、戦禍で傷ついた地域の未来をつなぐ大切な一歩。弊社は現地のＭｏｄｕｌｅｘ社と合弁会社設立に向けて協議をしている。来年早々には新会社を設立し、協力者と手を携え、ウクライナ復興を長期的に支えていく考えだ。困難を乗り越える力は地域の皆様の信頼と協働にある。今後も透明性を保ち、成果を共有し、現地雇用創出と支援機会の拡大に貢献していきたい」としている。